

平成 28 年
全国
一級河川の水質現況

Recent conditions of water quality of class A rivers in Japan

2016

平成 28 年水質調査結果
感覚的な水質指標による調査結果
水質事故等の状況
水難事故防止 ライジャケ・オン！

特集

利根川水系坂川

松戸宿坂川献灯まつり

- 先人と自然の恵みに感謝 -

「日本の清流」
荒川 [東北地方]

「清流」から生まれた名産品
安倍川 [中部地方]

「水質だより」
石手川 [四国地方]



CONTENTS

DATA



科学的調査

平成 28 年水質調査結果

- 04 DATA 水質が最も良好な河川 2016
- 05 DATA 水質が最も良好な河川 2007-2016
- 06 DATA 過去 10 年間の水質改善状況
- 07 DATA 環境基準（BOD 等）の満足状況



感覚的調査

感覚的な水質指標による調査結果

- 09 DATA 泳ぎたいと思うきれいな川
- 10 DATA 感覚的な水質指標による調査結果参加者数
- 11 DATA 参加者数 BEST5 地点の紹介



水質事故等の状況

- 12 DATA 水質事故等の状況

特集

利根川水系坂川

- 14 坂川献灯まつり
- 先人と自然の恵みに感謝 -



自然の恵みや先人達への敬意を「あかり」に託す
(写真提供：松戸宿坂川献灯まつり実行委員会)

Column

- 16 「日本の清流」  [東北地方] 荒川

- 17 「清流」から生まれた名産品  [中部地方] 安倍川

- 18 「水質だより」  [四国地方] 石手川



(写真提供：静岡市)

- 19 水難事故防止 

【科学的調査】 河川の汚濁状況等を科学的手法で行う調査

【感覚的調査】 ゴミの量や水のおいなどを人の諸感覚を用いて行う調査



科学的調査

平成 28 年水質調査結果

公害問題が顕在化してきた昭和 40 年代以降、水質汚濁が進み、「汚い、臭い、遊べない」といわれる河川が全国に多くありました。国土交通省が河川の水質について、年単位(1 月～12 月)でのとりまとめを始めた昭和 46 年当時、BOD 平均値が 5.0mg/ℓを超え、水質改善が急務であった地点は、一級河川の全調査地点の 27%を占めていました。

しかし、このような一級河川の水質も、これまでの排水規制、下水道整備、河川浄化事業等の推進により徐々に良くなっています。例えば、昭和 40 年代の多摩川は水質悪化が進み、洗剤の泡が浮く汚れた河川でした。昭和 50 年代後半には、アユの遡上が確認されるまでに水質が良くなり、近年では、清流といわれている四万十川の水質にも迫る良好な水質となっています。また、綾瀬川や大和川は、昭和 40 年代の都市化の進展に伴う水質汚濁が著しく、BOD 値が 30mg/ℓを超えていましたが、水質改善の取組みにより確実に良くなりました。特に大和川では、平成 28 年の代表地点の BOD 値が 2mg/ℓとなり、アユの遡上も確認されるようになっています。

こうした水質改善の背景には、排水規制や下水道整備のみならず、各地域や家庭での生活排水の汚れを減らす取組みや、流域でのクリーン活動等の啓発活動といった、流域の人々の様々な活動があります。これからも水質を維持・改善していくためには、このような各地域における努力を持続・発展させることが重要です。



科学的調査

THE BEST 18 河川

水質が最も良好な河川 2016

平成 28 年の平均的な水質（BOD 値）が最も良好な河川は以下のとおりです。

BOD 値による河川の水質状況（水質が最も良好な河川）

地方名	河川名			都道府県名
北海道	尻別川	シリベツガワ	（尻別川水系）	北海道
北海道	後志利別川	シリベントシベツガワ	（後志利別川水系）	北海道
北海道	鵲川	ムカワ	（鵲川水系）	北海道
北海道	沙流川	サルガワ	（沙流川水系）	北海道
東北	荒川	アラカワ	（阿武隈川水系）	福島県
東北	NEW 玉川	タマガワ	（雄物川水系）	秋田県
中部	安倍川	アベカワ	（安倍川水系）	静岡県
中部	NEW 櫛田川	クシダガワ	（櫛田川水系）	三重県
中部	宮川	ミヤガワ	（宮川水系）	三重県
近畿	北川	キタガワ	（北川水系）	福井県
中国	小鴨川	オガモガワ	（天神川水系）	鳥取県
中国	NEW 佐波川	サバガワ	（佐波川水系）	山口県
四国	仁淀川	ニヨドガワ	（仁淀川水系）	高知県、愛媛県
九州	厳木川	キュウラギガワ	（松浦川水系）	佐賀県
九州	球磨川	クマガワ	（球磨川水系）	熊本県、宮崎県、鹿児島県
九州	川辺川	カワベガワ	（球磨川水系）	熊本県
九州	小丸川	オマルガワ	（小丸川水系）	宮崎県
九州	五ヶ瀬川	ゴカセガワ	（五ヶ瀬川水系）	大分県、宮崎県、熊本県

NEW：過去 10 年ではじめて「水質が最も良好な河川」となった河川

【「水質が最も良好な河川」の定義】

以下の条件を満たす 164 河川のうち、各調査地点の BOD 年平均值による平均が 0.5 mg/ℓ（環境省の定める BOD の報告下限値）であるもの

- ・ 一級河川（本川）：直轄管理区間に調査地点が 2 以上ある河川
- ・ 一級河川（支川）：直轄管理区間延長が概ね 10km 以上、かつ直轄管理区間に調査地点が 2 以上ある河川

※湖沼類型指定、海域類型指定の調査地点及びダム貯水池は含まない。



科学的調査

水質が最も良好な河川

2007 - 2016

星印：「水質が最も良好な河川」となった年
(西暦下2桁)

平成 19-28 年水質調査結果



2007-2016 年（平成 19-28 年）の 10 年で、
4 回以上「水質が最も良好な河川」となった河川（12 河川）を紹介します





科学的調査

TOP

5

地点

過去 10 年間の水質改善状況

過去 10 年間に BOD 値が大幅に改善されている地点は以下のとおりです。

BOD 平均値の改善幅による過去 10 年間の水質改善状況

順位	地方名／地点名 (水系名河川名)		平成 18 年 BOD 年間 平均値 (mg/ℓ)	平成 28 年 BOD 年間 平均値 (mg/ℓ)	水質改善幅 (mg/ℓ)
1	近畿／中野橋	(淀川水系山科川)	7.4	2.1	5.3
2	関東／亀の子橋	(鶴見川水系鶴見川)	7.4	2.4	5.0
3	関東／秋山川末流	(利根川水系秋山川)	6.1	1.3	4.8
4	中国／川北	(芦田川水系高屋川)	6.2	1.8	4.4
5	関東／運河橋	(利根川水系利根運河)	7.9	3.9	4.0

平成 28 年の地点毎の年間の平均的な水質（BOD 値）と、平成 18 年の地点毎の年間の平均的な水質（BOD 値）から、10 年間の直轄管理区間の水質改善幅による地点の水質改善状況を比較すると、上記上位 5 地点で大幅な水質改善が進んでいます。

また、上記上位 5 地点以外にも、様々な取組み等により、全国的にきれいな川、生物が生息しやすい川などをめざして水質や水環境の改善が多面的に取り組まれています。

こうした地域の様々な人たちが参加した取組みが地域づくりや観光振興につながっている事例として、[坂川（千葉県）の事例](#)を特集「[松戸宿坂川献灯まつり - 先人と自然の恵みに感謝 -](#)」として掲載（p14-15）しています。



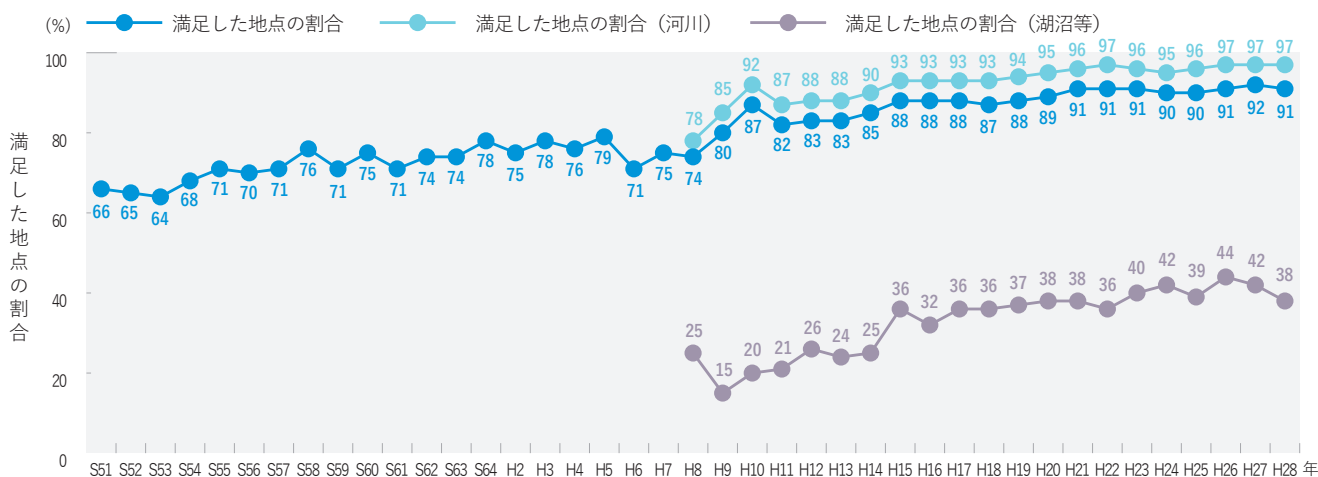
科学的調査

91%

環境基準（BOD 等）の満足状況

BOD※1（または COD※2）値が環境基準を満足した地点の割合は 91%でした。

【生活環境の保全に関する環境基準】



一級河川（湖沼及び海域を含む）において環境基準を満足した地点の割合

平成 28 年に、一級河川（湖沼及び海域を含む。）の直轄管理区間において、生活環境の保全に関する環境基準項目のうち、BOD（生物化学的酸素要求量）または、COD（化学的酸素要求量）の環境基準を満足した地点の割合は 91%（901 地点 / 987 地点）で、依然として高い割合を維持しています。

なお、平成 28 年に BOD（または COD）値が環境基準を満足した地点の割合について、地点の種類別に見ると、河川のみでは 97%（863 地点 / 887 地点）、湖沼等（海域含む）※3 では 38%（38 地点 / 100 地点）でした。

※1 BOD（生物化学的酸素要求量）： 河川の水質の汚濁状況を測る代表的な指標である。水中の汚れ（有機物）が微生物により分解されるときに消費される酸素量のことで、BOD の値が大きければ水が汚れていることを表す。

※2 COD（化学的酸素要求量）： 湖沼や海域の水質の汚濁状況を測る代表的な指標である。水中の有機物を酸化剤で酸化されるときに消費される酸化剤の量を酸素量に換算したもので、COD の値が大きければ水が汚れていることを表す。

※3 河川・湖沼別の環境基準を満足した地点の割合は平成 8 年より整理（平成 26 年以降は海域も含む）

【ダイオキシン類】

平成 28 年度における、ダイオキシン類が水質環境基準を満足した地点の割合は 97% でした。

【人の健康の保護に関する環境基準】

平成 28 年における、直轄管理区間の健康項目全体の環境基準満足率は 99%（前年 99%）となっており、ほとんどの地点で環境基準を満足しました。



感覚的な水質指標による 調査結果

国土交通省では、河川を BOD などの環境基準だけでなく多様な視点で評価するために、調査の一部を住民と河川管理者との協働で実施しています。
普段親しんでいる身近な川で、ゴミの量や水のおいなどを実際に体感することで評価しています。

住民との協働項目

ラ ン ク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル				地域特性項目	
			全国共通項目				糞便性大腸 菌群数（個 /100m ℓ）	当該河川・地点 の特性や地域住 民のニーズに応 じて独自に設定
			ゴミの量	透視度 (cm)	川 底 の 感 触	水 の におい		
A	顔を川の水につ けやすい (泳ぎたいと思う きれいな川)注3)		川の中や水際にゴ ミは見あたらない 。または、ゴミ はあるが全く気にな らない	100 以上	快 適 で ある	不快でない	100 以下	・住民と共に 独自に設定 ・文献等から 設定
B	川の中に入っ て遊びやすい		川の中や水際にゴ ミは目につくが、 我慢できる	70 以上	不 快 感 がない		1000 以下	
C	川の中には入 れないが、川 に近づくこと ができる		川の中や水際にゴ ミがあって不快で ある	30 以上	不 快 で ある	水に鼻を近づ けると不快な 臭いを感じる	1000 を超える もの	
D	川の水に魅力 がなく、川に 近づきにくい		川の中や水際にゴ ミがあっても不 快である	30 未満		水に鼻を近づ けるととても 不快な臭い を感じる		

国土交通省では、河川を BOD などの環境基準だけでなく多様な視点で評価するための指標について検討し、「今後の河川水質管理の指標について（案）」を平成 17 年 3 月にとりまとめました注1）。新しい水質指標は、「人と河川の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」などの視点からなり、調査の一部は住民と河川管理者との協働により平成 17 年から実施しています注2）。普段親しんでいる身近な川で、ゴミの量や水のおいなどを実際に体感することで評価しています。

注1 平成 21 年 3 月に一部改訂し、平成 21 年度の調査より適用しています。

注2 評価項目ごとに A～D ランクの 4 段階の評価ランクを決めた上で、まず調査回ごとに最も低い項目別評価ランクを、その地点のその調査時の総合評価ランクとし、1 年間の調査時の総合評価ランクのうち最頻出ランクを、その地点における年間の総合評価ランクとします。最頻出ランクが 2 つ以上ある場合は、低い方のランクを年間の総合評価ランクとします。

注3 あくまで水質に関する指標（ゴミの量、透視度、川底の感触、水のおい、糞便性大腸菌群数）により評価した結果であり、流れの状態や、川岸・川底の形状などの安全性については考慮していません。また、水浴場水質判定基準（環境省）における油膜の有無や COD 等の評価項目、その他の有害物質等による評価は行っていません。



感覚的調査

泳ぎたいと思うきれいな川



👑
A ランク

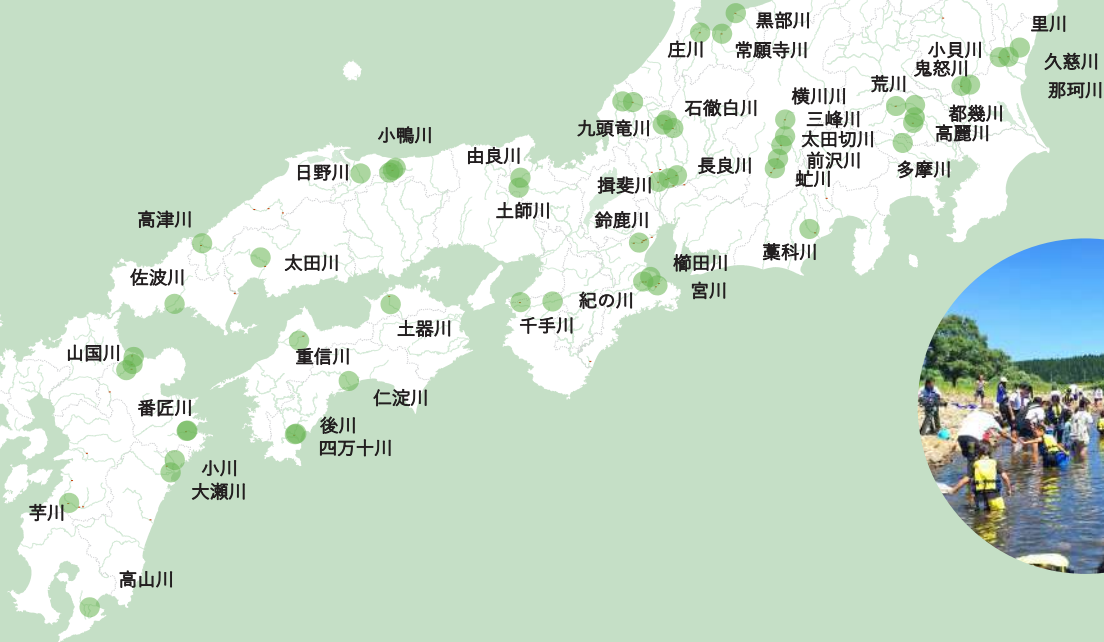
58 地点

調査結果

平成 28 年は、58 地点が「A ランク（泳ぎたいと思うきれいな川）」と評価されました。

新しい水質指標（河川）による
年間の総合評価ランク別の地点数

ランク	人と河川の豊かなふれあい	
	地点数	割合
A ランク	58	20%
B ランク	143	48%
C ランク	72	24%
D ランク	22	7%
計	295	100%



※ 住民と河川管理者との協働による評価項目のうち1項目以上を測定した調査結果及び河川管理者が単独で「ゴミの量」「川底の感触」又は「水のにおい」を含む1項目以上を測定した調査結果を、評価の対象としています。

※ 図中の緑の丸は、年間の総合評価ランクがAランクの地点。

※ あくまでも水質に関する指標により評価した結果であり、流れの状態や、川岸・川底の形状などの安全性については考慮していません。

※ 水浴場水質判定基準（環境省）における油膜の有無やCOD等の評価項目、その他の有害物質等による評価は行っていません。



感覚的な水質指標による 調査結果参加者数

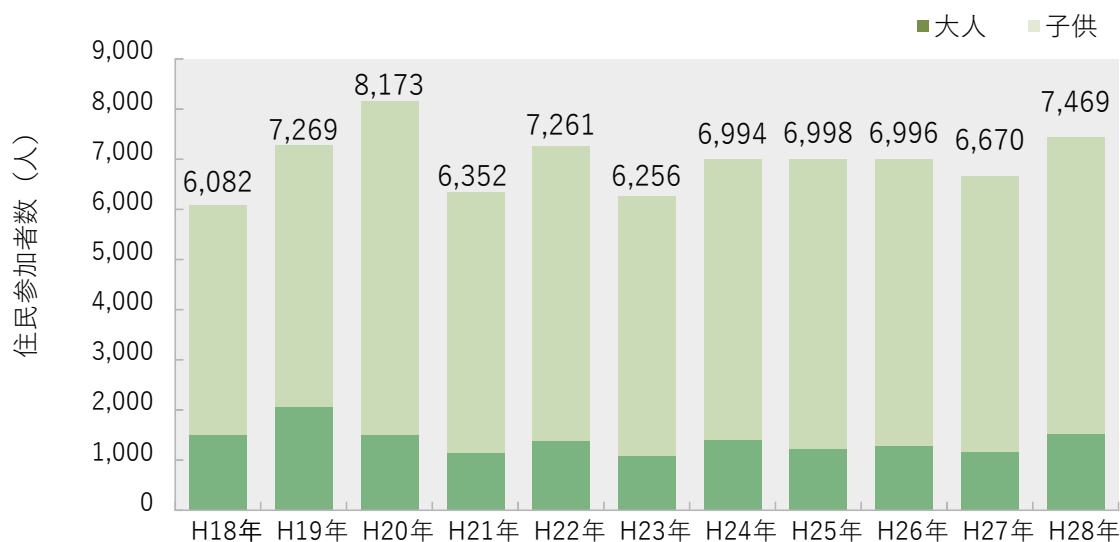
平成 28 年は、小中学生を中心として全国で 7,469 人が参加しました。



参加した住民の声

- ・ライフジャケットをつけて、学校の近くにある川に初めて入った。川の中は思ったより冷たく、底がヌルヌルしていた。
- ・普段から見られない生き物などが見られた。
- ・親子だけではなかなか川遊びが出来ないのでこういう機会がとてありがたい。
- ・水生昆虫や身近な川について多くの学習をすることができた。
- ・川にゴミを捨てないようにしようと思う。

【人と河川との豊かなふれあいの確保】



平成 18 年～平成 28 年の参加者数の推移

参加者数が特に多かった調査地点 BEST5

順位	都道府県	河川名（水系名） / 調査地点	参加者数
1	大阪府	大和川（大和川水系） / 浅香	353
2	三重県	雲出川（雲出川水系） / 小戸木橋	189
3	大分県	山国川（山国川水系） / 下宮永	184
4	大分県	乙津川（大野川水系） / 乙津川水辺の楽校	166
5	静岡県	大井川（大井川水系） / 金谷	150

※表中の参加者数は、年間通した延べ人数。年間に複数回の調査を実施した調査地点がある。



感覚的調査

参加者数 BEST5 地点の紹介

感覚的な水質指標による調査において、特に参加者数の多い地点

参加者数
NO
1

調査地点
「浅香」
大和川水系大和川
(大阪府)



参加者数
NO
2

調査地点
「小戸木橋」
雲出川水系雲出川
(三重県)



参加者数 BEST1 と 2 地点の「浅香」及び「小戸木橋」は 2 年連続同順位でした。(地点の紹介情報は平成 27 年資料をご覧ください)

参加者数
NO
3

調査地点
「下宮永」
山国川水系山国川
(大分県)



「下宮永（山国川水系山国川）」における調査の様子

山国川河川事務所では、吉富小学校、NAKATSU キッズサイエンス教室、放課後児童クラブどうしん、鶴居小学校と連携して水生生物調査や水質調査を行っています。NAKATSU キッズサイエンス（山国川たんけんたい）では山国川の生物や水質について調べた内容を山国川新聞（キッズサイエンス号）にまとめ、山国川の生態系を守っていくために子ども達自身ができることについて考えました。参加者からは、「山国川にはいろんな魚がいて魚にとっては住みやすい環境だということがわかった」「川の水はとてもきれいで酸素もあることがわかった」「川には深いところもあったし浅いところもあった」という感想がありました。

「乙津川水辺の楽校（大野川水系乙津川）」における調査の様子

大分河川国道事務所では大分市立別保小学校と連携して水生生物調査と水質調査を行っています。この調査は出前講座の一環として毎年実施しており、あわせて川の防災・環境教育を行っています。2016 年 6 月 2 日には 4 年生 160 名が 2 班に分かれて乙津川に住む水生生物の採取・観察と、pH・COD・透視度についての水質調査を行いました。調査地点は流れがゆるやかで、河床には粒子の細かい泥が堆積しています。泥に足をとられる体験や、石の裏に無数にくっついている魚の卵を見るのは初めて！という児童もいました。調査を通じて、自分たちの生活と川との関わりや、川に棲む生物のためにも川の環境を守る大切さを考えるきっかけとなっています。

調査地点
「乙津川水辺の楽校」
大野川水系乙津川
(大分県)



参加者数
NO
4

参加者数
NO
5

調査地点
「金谷」
大井川水系大井川
(静岡県)



「金谷（大井川水系大井川）」における調査の様子

2016 年 8 月 5 日に島田市内の小学 1 年から 6 年までの児童 90 名と保護者約 70 名が参加して水生生物の調査を行いました。静岡河川事務所の職員から水の綺麗さによって棲んでいる生物が違うと教えられ、参加者は熱心に魚や水生昆虫などを探しました。「メダカがいたよ！」「手長エビが捕れた！」と生き物を見つけるたびに歓声が上がりました。さらに調査を終えた児童と保護者を対象に河川防災講座が行われ、児童らは土を掘るときに使用するバックホウの乗車体験や災害時に夜間作業で活躍する照明車の操作体験など、楽しみながら建設現場で働く機械の役割なども学びました。



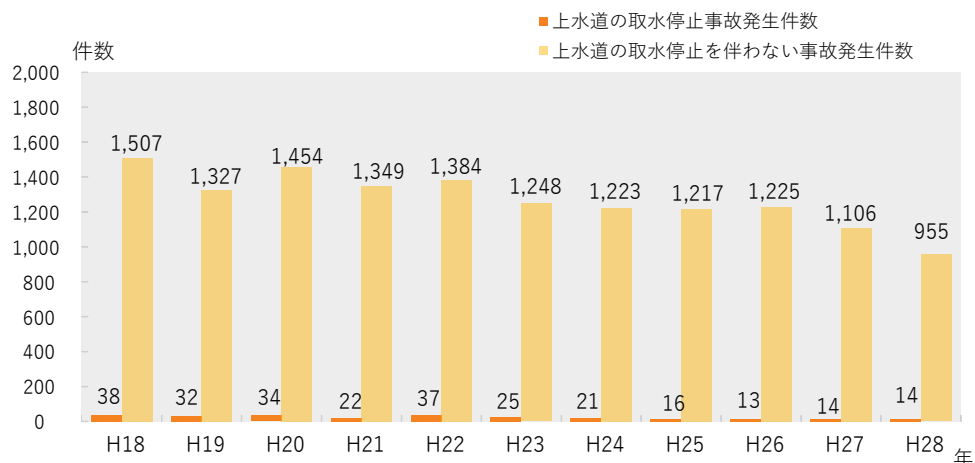
水質事故等の状況

平成 28 年の水質事故の発生件数は 969 件で、平成 19 年以降、減少傾向です。

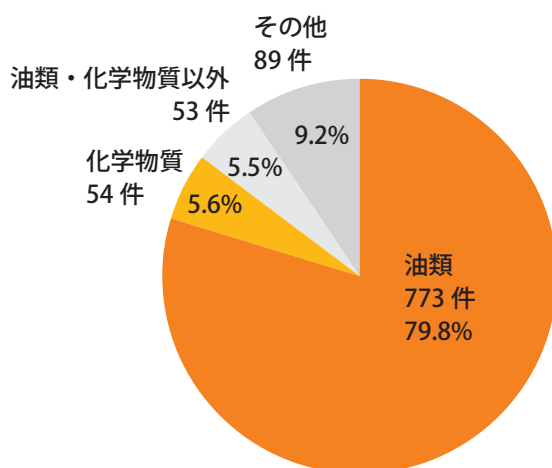
水質事故の発生件数は平成 18 年まで増加傾向にありましたが、その後は減少傾向にあります。平成 28 年は平成 27 年と比べ 151 件減りました。

事故の内容を原因物質別にみると、油類の流出が全体の約 8 割を占めています。

一級水系においては、水質事故発生時には、河川管理者、利水者、その他関係行政機関等により構成される「水質汚濁防止連絡協議会」を通じて、速やかに情報の収集、通報・連絡を行うとともに、関係機関との連携のもとにオイルフェンスを設置するなど、被害の拡大防止に努めています。



水質事故発生件数と上水道の取水停止事故発生件数の推移



合計 969 件（自然現象 20 件を除く）

水質事故の内容（原因物質別）



不法投棄による油流出事故

写真：国土交通省関東地方整備局 江戸川河川事務所

水質事故を防ぐために

水質事故の多くは油類や化学物質によるものであり、工場や農家などで使用される機械の故障・操作ミスや、交通事故、ごみの不法投棄などによって発生します。

ひとたび油類や化学物質が河川へ流出してしまうと、魚などの水生生物に影響を与えるだけでなく、規模によっては河川からの水道用水等の取水が制限されるなど、広範囲にわたって市民生活に重大な影響を及ぼすおそれがあります。

そのため水質事故発生時には、「水質汚濁防止連絡協議会」を通じて速やかに通報・連絡・情報収集を行うとともに被害の拡大を防止できるよう、日頃より関係機関と共同で訓練等を実施しています。

事例

北陸地方整備局での事例

暖房用として灯油等を扱う機会が多くなる厳冬期では、家庭に設置されている灯油ホームタンクや配管等からの油の流出に伴う水質事故が多く発生しています。

北陸地方整備局管内の「信濃川水系水質汚濁対策連絡協議会」では、水路で油が流出したことを想定した水質事故対応訓練を行い、参加機関の流域市町村等の各職員が迅速にオイルフェンスを設置するトレーニングを行うなど、技術力向上に努めています。

また、水質保全のための河川パトロール及び清掃活動、H P・チラシ及び広報紙等による水質保全、水質事故防止P R活動等を行い、注意喚起を促す取組みを続けています。



オイルフェンスの設置、展開等の実技訓練
(信濃川水系水質汚濁対策連絡協議会 信濃川流域部会)

※ 近年、一般家庭のホームタンクや事業場の貯蔵タンクから灯油等の燃料漏れが原因で河川等に流れ出す事故が多く見られます。その原因には、タンクの配管損傷（老朽化等）、タンクへの給油中の油漏れ、工場内のボイラー等の送油管損傷などが挙げられますが、その多くは点検不備や操作ミスによるものです。日頃から油の取り扱い注意・点検などを行ってれば、河川などへの油流出事故を防ぐことができます。



土のう積み訓練（淀川水質汚濁防止連絡協議会・神崎川水質汚濁対策連絡協議会の合同訓練）

近畿地方整備局での事例

近畿地方整備局管内の「淀川水質汚濁防止連絡協議会」及び「神崎川水質汚濁対策連絡協議会」では、淀川流域自治体の水質事故担当者を対象とした水質事故対応現地講習会を実施しています。

講習会では、油流出事故対策の基礎知識について学習し、油種の判別、油処理剤の実験等を実施するほか、現場実習としてオイルフェンスの展張や土のう積み等を行い、いざという時に対応するための知識や技能を学びます。

松戸宿坂川献灯まつり

- 先人と自然の恵みに感謝 -

【利根川水系坂川（千葉県松戸市）】

特集

坂川（千葉県）

江戸川を挟んで東京都に隣接し、居住人口千葉県内第3位の松戸市は、毎年夏の盛りに「とうもろこし市」が立つなど、古くから水戸街道の宿場町として栄えてきました。地域ゆかりの伝統行事が後継者不足により中断を余儀なくされましたが、この地を流れる坂川のきれいな水を取り戻し、松戸宿ゆかりの行事を盛り上げていこうとする地元の機運が高まったことにより継続・発展されることになりました。現在4万5,000人が参加する大きな夏の風物詩「松戸宿坂川献灯まつり」は地域が一体となって長年取り組んできた水質改善から生まれた成果なのです。



写真提供：
松戸宿坂川献灯まつり実行委員会

江戸時代から続く、名物行事
「とうもろこし市」

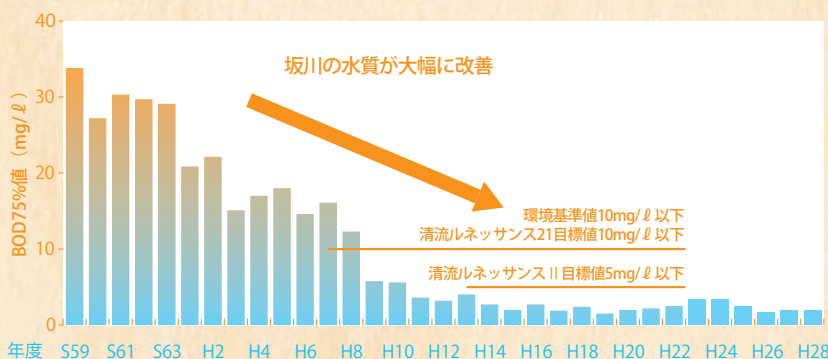
都市化に伴い汚れていった坂川

昭和30年代後半から急速に都市化が進んだ坂川流域では、下水道整備が追い付かず生活排水のほとんどが市内の水路を通して、直接坂川に流されていました。そのため、水面にはスカムやゴミが浮遊し、悪臭が発生するなど坂川の汚染は流域の深刻な問題となりました。

そこで平成に入り「清流ルネッサンス21注）」が策定され、国による北千葉導水路の整備、県・市による下水道の整備、地域や学校等による環境学習、生活排水対策等の発生源対策の取組みなど、地域住民と松戸市、流山市、柏市、千葉県、国などが一体となった水質浄化の取組みが進められた結果、江戸川・坂川の水質は大幅に改善されました。

注）清流ルネッサンス

きれいな川、生物が生息しやすい川などをめざし住民と行政が一体となって水質や水環境の改善を行う取組み。正式名称は「水環境改善緊急行動計画」。1993年から2000年度まで実施された「清流ルネッサンス21」と2001年度から開始された第二期の「清流ルネッサンスII」がある。



坂川（赤坂）のBOD75%値の経年変化（平成23年度以降は「赤坂樋門」（松戸市測定）のデータを表記）

【参考資料】「清流ルネッサンス江戸川・坂川」（清流ルネッサンス江戸川・坂川地域協議会）
平成22年度に清流ルネッサンスIIは終了し、24年度から協議会を連絡会に移行

水質改善による地域の伝統行事の継続・発展

江戸時代、水運と宿場で栄えた松戸の町では、毎年夏には「とうもろこし市」が立ちました。もともと地域の縁日の催しの一つとして長年親しまれたこの行事は、後継者不足が深刻になり、一度は中断することが真剣に議論されることに。一方で清流化に向けた事業が順調に進む中で、この地域を流れる坂川にきれいな水を取り戻し、松戸宿ゆかりの行事を盛り上げて行こうとする地元の機運も高まりを見せていました。

そのような背景を受け、観音様の縁日という江戸時代からの伝統も継承しつつも、自然の恵みや坂川を開いた先人たちに感謝の気持ちを表そうと地元の意見が一つになり、平成18年に新たに「献灯まつり」として再出発することになりました。



(写真提供：清流ルネッサンス
江戸川・坂川地域協議会)



【写真】昭和63年の坂川（赤坂）

昭和の坂川は水質汚濁が進行。当時最も水質の悪いところではBOD75%値が30mg/Lを超えるなど、スカムやゴミが浮き、水は濁り悪臭が発生していました。

【写真】平成29年の坂川（赤坂）

浄化施設の整備や北千葉導水路の整備等の事業により水質が改善。平成28年にはBOD75%値が1.9mg/Lとなっています。

松戸宿坂川献灯まつり - 先人と自然の恵みに感謝 -



写真提供：松戸宿坂川献灯まつり実行委員会

坂川の風情に花を添えるゆかた行列



写真提供：松戸宿坂川献灯まつり実行委員会

商店会・町会有志による沿道各所の屋台



写真提供：松戸宿坂川献灯まつり実行委員会

地元の観光案内所もおしゃれなカフェに変身

地域の原風景を再発見

「松戸宿坂川献灯まつり」の昼のイベントではNPO 法人松戸市カヌー協会が小中学生を対象としたカヌー乗船体験を提供するなど、水辺に直接親しむ活動からスタート。

日が落ち始める夕方にはゆかたを着た参加者が坂川沿道に行列をつくり坂川の風情に花を添えながら会場をゆっくり歩きます。そして地元商店会や町会有志による沿道各所の屋台が賑いを見せるなか、多くの人が水辺に近づいて献灯をします。

多い時は4万5,000人もの人々が参加するこの8月9日・10日の2日間の行事は、とうもろこし8,000本が消費され、地域のボランティア100人が協力し、参加者の祈りや願いが書かれた1200基のとうろう流しが行われる大きなお祭りへと発展しました。

とうもろこし市が立つ緑日には献灯が行われたという昔からの言い伝えにちなんで「献灯まつり」と名づけられ、坂川の流れに沿って多数の行灯や提灯を並べ、自然の恵み

や坂川を開いた先人たちに感謝の気持ちを表す行事が、毎年工夫を凝らしながら開催されているのです。

次世代に水質改善の取り組みを伝える地域の努力

放っておくとゴミがたまるため、行事以外でも地元の市民の会を中心として2か月に1度坂川の河川清掃を行い、水辺空間を保ち地域に活動の輪を広げる取り組みを行っています。また、坂川流域の市民・小学校等では坂川のモニタリング調査等の活動を通じ、坂川の状態を把握する取り組みも行っています。

このように地元では学校での教育、行政による出前講座、川に親しむイベント等をはじめとして、水質が改善された背景には流域内の多くの関係者の努力があったことを伝える活動を続けています。



カヌーで川に親しむ活動
(写真提供：松戸宿坂川献灯まつり実行委員会)

地域の声

かつて坂川は、一度川に落ちると一日中臭いが取れないような「ドブ川」でした。それが清流化の事業が進み、水質が改善されるにつれて少しずつ地元から注目されるようになりました。今ではウナギや鮎も釣れるほど水質が良くなりました。

江戸時代から続く地域の伝統行事が継承されたのは、坂川の水質が良くなったからです。川がキレイになることで地域の自然を再発見し、川にまつわる地域の行事を盛り上げようとする機運が高まりました。

近藤善信さん（写真左）と
日暮幸信さん（写真右）

松戸宿坂川献灯まつり実行委員会のお二人。坂川にまつわる松戸宿ゆかりの行事を更に盛り上げようと日々尽力中です。



坂川に設けられた特設ステージ
(写真提供：松戸宿坂川献灯まつり実行委員会)



「清流」荒川を間近で体感できる、土木遺産の地蔵原堰堤
(写真提供：東北地方整備局)

地域の宝「清流」荒川と インフラツアー

日本一の清流荒川と土木遺産

福島市の西部を流れる荒川は、阿武隈川水系の一級河川です。平成19年から平成28年までの10年間に9回で「水質が最も良好な河川」となっており、東北はもとより、日本を代表する清らかな川です。

その荒川の清流に沿った散策路と、地蔵原堰堤、荒川第一堰堤等の砂防堰堤施設群をはじめとした土木遺産、登録有形文化財をめぐるコースが、今インフラツアーとして人気です。所要時間2時間程度で子どもからお年寄りまで歩くことができるウォーキングコースもあり、スタート地点の「四季の里」の花、「水林自然林」の野草、土木遺産の水防林、霞堤、地蔵原堰堤等の見どころがあり、荒川の自然は、季節により変化し、いつでも新しい発見があります。

荒川桜づつみ河川公園

荒川のもう一つのインフラツアーとして、一年を通して

市民が集まるのが荒川桜づつみ河川公園です。園内には約220本の桜並木があり、多くの人々の憩いの場となっています。

公園の背後には吾妻連峰が見え、春の風物詩「吾妻小富士の雪うさぎ」と桜と一緒に楽しむことができます。また公園内には遊具などがあり小さなお子さん也十分楽しめます。一年を通して近隣のかたの散策コースとして親しまれ、春には花見、秋には芋煮会にぎわいます。

景観の保全を支える活動

そうした景観の保全を支えるのが地元の河川愛護団体や住民等による荒川クリーンアップ大作戦等の活動です。多くの方々が参加・協力することで、水質だけでなく地域の資源としての荒川の景観が保たれ、インフラツアーや人々が集まるイベント等でその清らかな流れの美しさを光らせているのです。



「うつくしま・水ウォーク」で土木遺産巡り
(写真提供：東北地方整備局)

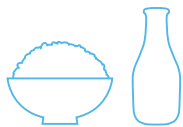


ソメイヨシノをメインとした約1kmにわたる桜並木が楽しめる
荒川桜づつみ河川公園 (写真提供：東北地方整備局)



約1,500人が参加する「荒川クリーンアップ大作戦」(写真提供：東北地方整備局)

Made in "Clear Water"

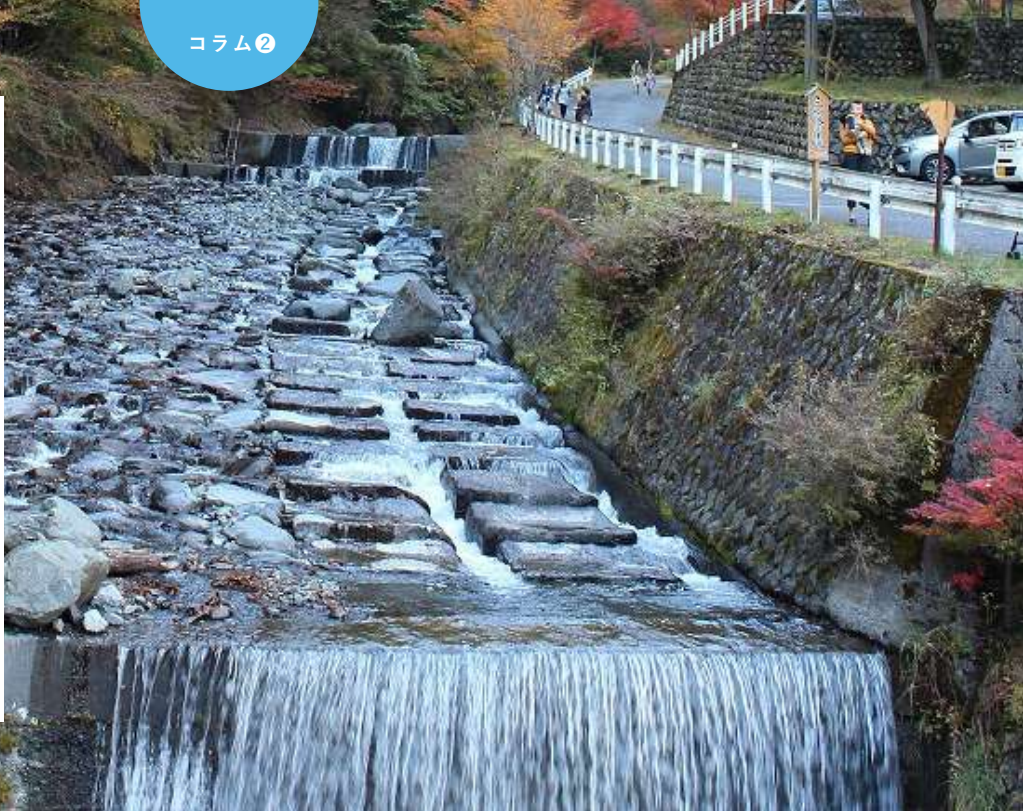


「清流」から生まれた
名産品

【中部地方】

安倍川

安倍川水系



「秋の安倍川」（写真提供：中部地方整備局）

「清流の都・静岡」の母なる川、安倍川

安倍川は我が国屈指の急流河川であるとともに日本三大崩れのひとつである「大谷崩れ」を始めとする流域内の崩壊地より多量の土砂供給がある急流土砂河川です。安倍川は、平成 19 年から 28 年までの間に 6 回「水質が最も良好な河川」となっており、非常に清らかな流れを保っています。静岡平野の豊富な地下水や湧水の源となり、人々の暮らしに多くの恵みをもたらし、暮らしを支えてきました。また、森林の栄養分は、安倍川によって駿河湾に運ばれ海の恵みをもたらしてきました。静岡市は清流・安倍川を源流から河口まで有する等、健全な水循環を背景とした豊かな自然環境を礎に、発展してきました。

安倍川が生んだ名産品

安倍川流域における主要な生産物は、農作物としてみかん、

茶、いちご、わさび等があげられます。安倍茶は江戸時代には徳川将軍の御用茶として用いられており、現在においても流域内において茶の生産が盛んに行なわれており、その生産量は全国一です。

地元ではこのような安倍川の清流を保全するため「清流条例」を制定し、安倍川の恵みを楽しんでいる農業協同組合や森林組合との間で清流保全協定を締結するとともに、市街地における下水道整備はもとより、上流部における排水処理施設の整備促進や、市民による清掃活動等を支援するアドプトプログラム等をおこなっています。



清らかで温度が一定の豊富な水が不可欠なワサビ。今から約 400 年前の安倍川上流の有東木で、自生していた「わさび」に水を引いて栽培したのがわさび栽培の始まりといわれている。

（写真提供：静岡市）

安倍川の清らかな水が、 様々な名産品を生んでいます



静岡茶発祥の地とされる安倍川流域とその支流である葉科川流域周辺の山間地域で生産された静岡本山茶（写真提供：JA 静岡市）



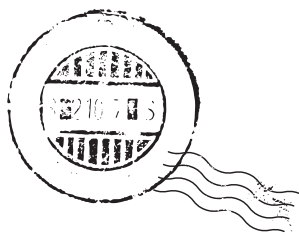
富士川、安倍川、大井川の水が運び込む栄養素を背景に、駿河湾ではさくらえびの漁獲量が日本一である（写真提供：静岡市）



静岡市の名物。江戸時代初期、徳川家康が安倍川にちなんで安倍川もちと名付けたという伝承がある。

水質だより [四国地方] 石手川

重信川水系



重信川水系石手川は、四国最大の都市で県庁所在地でもある松山市を流れる河川です。浄化施設等の効果により、都市部地点のBODの環境基準を大きく超えていた石手川の水質は、大きく改善。近づきやすくなった水辺は地域のイメージアップにも貢献しています。



重信川に合流する石手川

水質改善の取り組み

都市化の進む松山市周辺部。石手川と、その支川である小野川の合流後の市坪と出合橋の水質は、家庭排水などで汚れていました。そこで、市坪付近の水質を改善するために水質浄化施設をつくりました。

水質浄化施設はおおよそ、長さ200m、幅8m、深さ4mの構造物です。周辺の風景となじむように工夫されたため、施設を外から見るとはできませんが、中には無数の水質浄化材がつまっています。小野川の水は水質浄化材の間をゆっくり動き、有機物が砂利と微生物の力できれい

にされます。こうしてきれいになった水は小野川に戻され、石手川へと合流します。平成18年にはBOD75%値が5.9mg/ℓだった水質が、10年後の平成28年には2.1mg/ℓと大きく改善されています。

この施設や松山市の下水道整備の進捗等により水質が格段に向上し、野鳥や魚類などの水生生物がすみやすく、地域の人々が水辺に親しみやすい空間となりました。

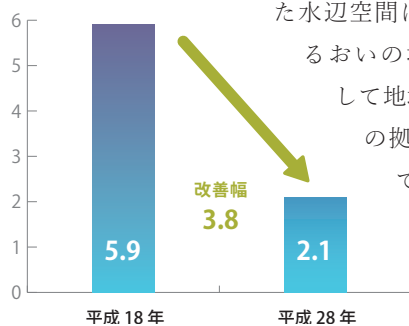
市民の憩いの場として

石手川の水辺空間の活用に向け、水質浄化事業を併せて、松山中央公園整備事業と一体として、水辺の整備を行いました。水質が改善され、緑豊かな河川環境となった水辺空間は市民のやすらぎの場、う

るおいの場、ふれあいの場として地域レクリエーションの拠点として活用されています。



石手川合流前の小野川の河岸に水質浄化材を敷き詰めた浄化施設（写真提供：松山河川国道事務所）



石手川（市坪）における10年間の水質改善状況（BOD75%値 mg/ℓ）

市民の憩いの場としての石手川（写真提供：松山河川国道事務所）

ベルトを締め、体をフィットさせることで脱げにくくなる。

水難事故防止

ライフジャケット・オン!

ライフジャケット・オン・スタイル

水面でも呼吸ができるようにする。

ライフジャケット

体温を奪われないようにする。

乾きやすい服装(水着など)

足を守る。脱げないようにする。

運動靴など

大切な頭を守る。
ヘルメット(あれば)

川は楽しい場所ですがリスクもあります。川に入らなくても川岸で足を滑らせて転落することもあります。川での水難事故のほとんどはライフジャケットさえ着ていれば防げた可能性があります。

川で子どもを事故に遭わせないために、そして自分も事故に遭わないように、子どもも大人もライフジャケットを着用する必要があります。



だるまキャラの「山田るま」ちゃんが、ライフジャケットを着て「川田るま」に変身!

川で遊ぶ時は、まずチェック!

川の防災情報

提供
国土交通省

左の画面は、東京近郊のレーダー雨量画面です。国土交通省では川の防災情報を携帯電話向けに情報提供しています。



川のリアルタイムな情報をチェック!

川に着いたらレーダー雨量や水位を確認しよう!

① 川に行く前にチェック!

- 必ず天気や川の情報をチェックしよう。急な雨で、川が増水することもあるぞ!
- バーベキューやキャンプなどでも川に近づく場合はライフジャケットを用意しよう!(大人も子どもも)



② 川に着いたら安全も確認!

- 川に関する看板があれば確認しよう。
- 大人も子どももライフジャケットを着用し、子どもから目をはなさないように。(堰付近は川遊びにはケン・近づかない!)
- 川のリアルタイムな情報を確認し、上流の状況について把握しよう。

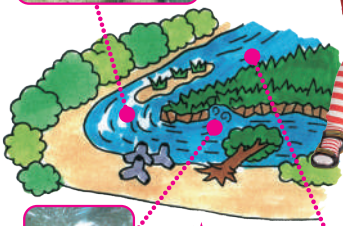


③ 表面は穏やかでも水中は注意!

- 川には流れがあり、常に**変化**しているぞ!
- 一見穏やかに見えても、急に**深くなる所**や、**滑りやすい所**があるぞ!
- 川の事故の約**90%**は、穏やかな流れや浅瀬で発生しているぞ!



浅瀬に見えても...
中は激流!



穏やかな流れの中は、**渦を巻いている**ことも!

川底は滑り易かったり石につまづいて転びやすい



穏やかな流れに見えても...
急に**深くなる!**
滑りやすい!

④ こんな場所は急な増水に注意!

- 河原は、増水の時**川底**になるぞ。特に中州にいと、増水したら取り残されるぞ!



川原に草が生えていない所は、増水時に水が流れていることの「証」

⑤ すぐに避難!

- 増水の**前ぶれ**や、警報が鳴ったら直ちに避難しよう! すぐに水位が上がってくるぞ!
- パトロールの人たちや警察・消防、河川管理者の注意には必ず従おう。



増水の前ぶれはこんな時!

- 山鳴り(山全体がうなるような音)がする。
- 水かさが増え、濁ったり、流木、落ち葉が流れてくる。
- 雨が降っているのに、水かさが減っている。
- 腐った土・火薬のようなにおいがする。

※もし誰かが流されたら、浮くもの等を投げよう(子どもは大人を呼ぼう!)。救助する大人が事故に合わないよう、大人もライフジャケットを!



ミズベリング・プロジェクトとは

かつての賑わいを失ってしまった日本の水辺の新しい活用の可能性を、創造していくプロジェクトです。
ミズベリングは「水辺+RING(輪)」、「水辺+R(リノベーション)+ING(進行形)」の造語。
水辺に興味を持つ市民や企業、そして行政が三位一体となって、
水辺とまちが一体となった美しい景観と、
新しい賑わいを生み出すムーブメントを、つぎつぎと起こしていきます。

水辺のアクションがもっと増えれば、 みんなのまちはもっともっと輝くはずだ。

なにやら、全国の水辺が、ゆるゆると元気になってきた。
カフェやテラスができたり、巨大アヒルが浮かんでいたり。
河川を管理する規制の緩和で、水辺のポテンシャルが一気に加速してきたみたい。

すでに元気な水辺の都市もあるけれど、
まだまだ水辺をとりいれてワクワクできる環境づくり、まちづくりはできるはず。

そこでミズベリング・プロジェクト、開始。
ミズベリング(MIZBERING)とは、「水辺+リング(輪)」の造語であると同時に常に現在進行形“ING”の気持ちで、
水辺とまちが一体になった美しい景観を未来へ創造しつづけるソーシャル・アクションワード。

みんなのアイデアとアクションが集まれば、日本の水辺は、きっと世界がうらやましくて素敵なまちになるはずだ。

ミズベリング・プロジェクト事務局

mizbering.jp

ミズベリングの先進事例に学ぶ

1

「水都大阪」

「水都大阪」という、「水の都」としての大阪を復活させるプロジェクトをご存じだろうか？ 2011年から2020年までの長期プロジェクトで、「水都大阪 水と光のまちづくり構想」を掲げ、関西全体を元気にする「大阪の都市力の向上」を目標にしている。構想策定から10年間、水と光のまちづくりの取り組みを推進するにあたり、市民・地域・NPO・行政等との連携をさらに強化。オール大阪で水辺の利用促進に励んでいる。



©千島土地株式会社

2

「水の都ひろしま」

広島市はまちの中心部を6本の川が流れている「水の都」。その恵まれた水辺を都市づくりに活かすべく、戦後間もない頃から水辺を緑地として整備してきた。今では延長25kmもの緑豊かな河岸緑地となり、美しい水辺が形成されている。水辺をもっと市民に使ってもらうため、市民と国・県・市の協働で「水の都ひろしま」構想(2003年)を策定。「水辺のオープンカフェ」や「水辺のコンサート」を開催、水辺での市民活動の促進、水上交通の活性化の推進などを行い、河川空間における市民や民間事業者の多様な活用が進んでいる。



水辺のアクションをみんなで起こせば、 日本のまちはもっともっと輝くはずだ。

ミズベリング、5つのアクション

1 つなごう

「水辺の未来」を考える人が
つながれば、大きなムーブメントが
生まれるはずだ。

2 かたろう

「水辺の可能性」をみんなで掘れば、
思いも寄らないアイデアが
浮かぶはずだ。

3 ためそう

「水辺でのチャレンジ」が湧いていけば、
世の中はもっと水辺に
注目するはずだ。

4 つくろう

「水辺を通したまちづくり」が進めば、
日本のまちは世界がうらやましく
なるはずだ。

5 育てよう

「水辺での暮らし」をみんなで
育てていけば、人生はもっと
豊かになるはずだ。